

岡本太郎を過去の偉人だと思っっている人はいませんか。いや、太郎はまぎれもなく「今日の芸術家」なのです。願わくば、この本を通じて太郎が、21世紀にふさわしい顔つきで、もう一度蘇らんことを。爆発的に！——**榎木野衣**

ヒカソが咆哮し、ジョイスが哄笑するバリで、若き岡本太郎はウルトラ・モダンの怒濤逆巻く海峡に、我が身を投じたのだ。しかし、日本へ戻った彼を待ち受けていたのは、表層のモダンと戯れる薄っぺらな近代主義者たちがつくる、擬制の文化だった。岡本太郎は怒りをこめて、偽物たちに立ち向かっていった。まるでドン・キホーテのように。日本のウルトラ・モダニスト岡本太郎の祖国における数少ない味方は、縄文、沖縄、アイヌ、古代、と数こそ少ないが、いずれも強力な魔力をひめた面々。壮絶で滑稽なその闘いの様を、少年の目に目撃してい

たほくは、いまにじぶんもこの人のように戦おうと誓っていた。人類学者・多摩美術大学芸術人類学研究所 所長

中沢新一

「前例のない道を進むべし」というメッセージにこそ、岡本太郎の真価はある。原爆を落とされ、戦争に負けた日本において、絵画、彫刻、写真、テレビ、ありとあらゆるメディアの活動を展開し、日本人が人間らしさを再生する手だてをひたすら芸術に求めた男。この本のなかには、岡本太郎の未知の可能性が燃え

たぎっている。

「これからの百年」へ
の記念碑を
いよいよ節目の年が来る。岡本太郎生誕100年。2011年は「これまでの百年」から「これからの百年」にブリッジを架ける年だ。むろんやるべきことは太郎を真似たり崇めたりすることじゃない。「墓守」に血道を上げたところで岡本太郎は喜んでほしくない。いま太郎と向き合いたいなら、彼と「真剣に遊ぶ」しかない。ほくはそう考えている。この節目の年に太郎と真正面からぶつかる覚悟を決めた強者が現れた。リングに上がるのはあの榎木野衣と祖父江

（さわらぎ・のい）1962年秩父市生まれ。美術批評家。多摩美術大学美術学部教授・芸術人類学研究所所員。美術のみならず、戦後日本の歴史なき空間を「悪い場所」として、批評的に挑発しつつける。岡本太郎を論じた『黒い太陽と赤い力』や、『日本現代美術』『戦争と万博』『増補版シミュレーションニズム』『反アート入門』といった著書のほか、「日本ゼロ年」「アノマリ」など、展覧会のキュレーションも手がけている。

慎だ。退屈な試合になるはずがない。いったい彼らはどんな風に遊んでみせるのか、期待は高まるばかりだ。ぜひ「これからの百年」に向けた記念碑となる作品をつくって欲しい。

岡本太郎記念館館長

平野暁臣

岡本太郎の全貌を網羅する最大の作品集！！

2011年2月下旬発売！！

2011年7月31日まで刊行記念特別定価
25,200円
(税込)(本体24,000円)

●2011年8月1日より定価 29,400円(税込)
(本体28,000円)(消費税率 5% 2011年1月現在) ●体裁 = B4変型(280×225mm)／424ページ／特装美麗特殊カバー／保護函入
●デザイン = 祖父江慎 + 佐藤亜沙美(コズフィッシュ) ●発売 = 河出書房新社



本書の特色
主要な作品と
言葉を収めた
最大の作品集
写真作品も多数収録
絵画、彫刻、写真、ドローイングなど、主要な作品約200点と、作家の思考が表現された数々の言葉を収録！

迫力の大画面

バリ時代に制作され、その後失われた「空間」「コントロール」から、戦後日本の芸術に衝撃を与えた「夜」「重工業」「森の掟」、絵画以外の立体作品などを、時系列に沿った見開きで大きく掲載！

太陽の塔 × 明日の神話

同時期に制作された二つの最高傑作を連結して展開し、これまでにない斬新な見せ方を提示！

榎木野衣による解説とテレビ年譜

巻末には、本書監修の美術批評家・榎木野衣の解説と、岡本太郎の社会との関わりを象徴するテレビ年譜を収める！

祖父江慎の斬新なデザイン

特別な製本による平らな見開き大画面で、作品を細部まで生き生きと再現。2つの巨大両面観音をはじめ、造本の限界に挑戦する21世紀型作品集！



『明日の神話』の両面観音(部分)

河出書房新社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 電話：03-3404-1201 FAX：03-3404-0338 <http://www.kawade.co.jp>

書店印

ご注文数

岡本太郎 爆発大全
2011年2月下旬発売 ISBN978-4-309-25535-4

お名前

お電話

〒

ご住所

岡本太郎 爆発大全

OKAMOTO TARO BAKUHATSU TAIZEN 生誕100年記念出版 監修 榎木野衣 河出書房新社

TARO 100 祭

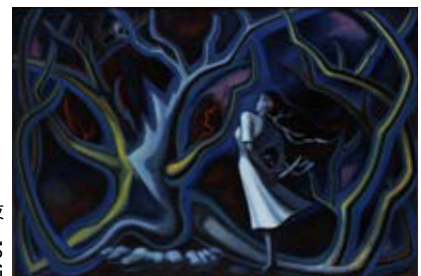
21世紀の岡本太郎はこれだ!!

生誕100年を記念して、岡本太郎の全貌をとらえ直す画期的試み。絵画、彫刻、写真、ドローイングなど、主要な作品約200点と、作家の思考が鮮明に表れた数々の言葉をふんだんに盛りこむ、21世紀型作品集がついに誕生。

作品を全面に大きく掲載！

巨大両観音で魅せる

1934年にパリで制作された「空間」から、戦後の代表的絵画「夜」「森の掟」や彫刻「動物」など、全活動から精選した主要な作品を、時系列に沿って見開きの大平面で展開する。



夜 1947



森の掟 1950



動物 1959

明日の神話

「太陽の塔」と同時期に構想された大作「明日の神話」を、2メートル近い、断ち落とし両観音に収める。

立ち上がる！

太陽の塔

1970年に大阪で開催された日本万国博覧会。そこで公開された地上70メートルを超える巨大なモニュメントを、四つ折りの綴じ込みページに収める。地下展示から塔内の「生命の樹」や空中展示の記録も、当時の流れに沿って再現。



太陽の塔 1970

写真家・岡本太郎の鋭い視線！

後期の立体作品も愉快！



土偶(縄文土器) 1956 沖縄・久高島 大御嶽 1959



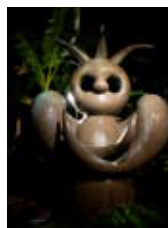
大阪・通天閣 鯉のぼり 1957



顔 1952



愛 1961

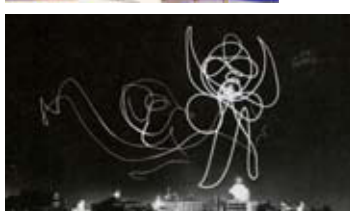


少女 1968

珍しい作品も数多く集載！



お父さん、お母さん、太郎 1966



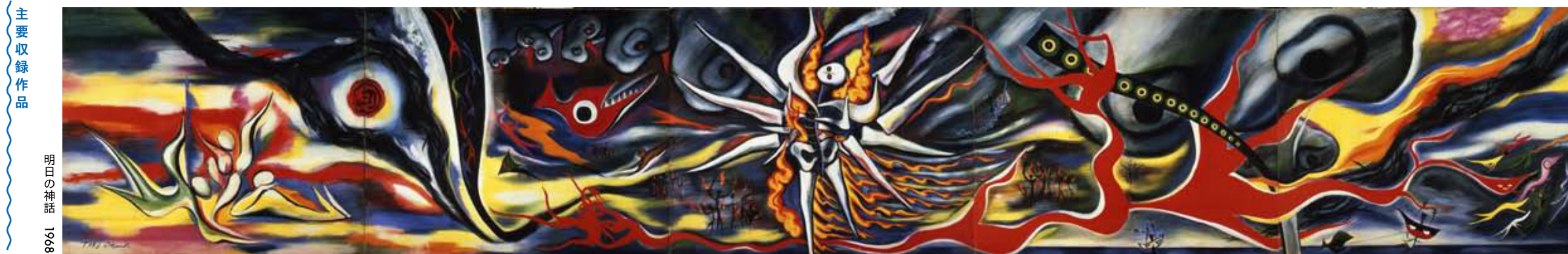
東京・銀座の夜空に描く 1955

「顔」を皮切りに、晩年まで作りつづけたユニークな立体作品の数々を収める。

ヘリコプターで夜空に描いたパフォーマンス「東京・銀座の夜空に描く」や、フォルクスワーゲンによるモダンアート展に出品された「お父さん、お母さん、太郎」など、珍しい作品も集載。

主要収録作品

空間／空間2／空間3／雲／コントロール
ポアン／リボン／リボンの祭り／机のある静物／幸なき楽園／リボンを結んだ女／花と人／露店／夜／電撃／憂愁／憂愁II／女／二人／まひるの顔／作家／夜明け／傷ましき腕／赤い兎／美女と野獣／群像／重工業／森の掟／喫煙者／駄々子／笑い／顔／台所合戦／リボン／装飾／海辺／犬／動物／青空／燃える人／東京・銀座の夜空に描く／死の灰／日の壁／雑草と四つ足／パイラ人／原始／サカナ／裂けた顔／生成／愛／渾沌／メリー・ポール／誇り／予感／愛撫／装える戦士／エクセホモ／鳥／坐ることを拒否する椅子／マロン／梵鐘／歡喜／若い時計台／お父さん、お母さん、太郎／手の椅子／光る彫刻／顔／マミ会館／愛の部屋／板面の祭り／花びらの座／太陽の塔／明日の神話／豊饒の神話／黒い顔／飲む／戦士／花びらの椅子／マスク／ノン／樹人／星／花／愛／咲笑／訣別／飛行船／千手／顔のクラス／歡喜／雷神／河童像／むすめ／踊り／ひらく肖像／乙女／めばえ／咲笑
その他、写真、ドローイングなど



明日の神話 1968

今日の芸術は、うまくあつてはいけない。きれいであつてはならない。ここちよくあつてはならない。私は宣言します。私を最も感動させたのは、意外にも、まったく何の実体も持っていない——といって差支えない、御獄だった。芸術は呪術である。綾とりの糸は天地、昼と夜をくぐり抜ける。整然としながら無限の迷路だ。